

令和7年度 指定管理者モニタリングチェックシート

評価期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日		
施設名	若山牧水記念文学館、若山牧水生家	指定管理者名	日向若山牧水顕彰会
所管課	文化・生涯学習課	指定期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日

自己評価 (指定管理者が記載)	令和7年度は、牧水生誕140年及び文学館開館20周年記念の節目の年として企画展『牧水43年の生涯』をはじめ、文学館開館記念コンサート、牧水生誕140年記念牧水祭特別企画『記念シンポジウム』など様々な記念事業を実施し、県内外から多くの参加があり盛会のうちに開催することができた。 展示については、常設展示室の遺墨等の定期的な入替、企画展示室では『牧水43年の生涯』特別企画展等の開催、そのほかギャラリーでは牧水母校作品展等を開催した。 資料収集・保管については、牧水遺墨の購入のほか、牧水等関連の写真帳、書簡等の寄贈・寄託を受け、保管した。 顕彰普及事業等については、牧水生誕140年記念第75回牧水祭特別企画、青の國若山牧水短歌大会、短歌実作講座、初心者向けの基礎講座を開催した。また、文学館だよりの発行など文学館・顕彰活動の広報等の情報発信に努めた。 来館者に対しては、場に応じた対応など適切な接遇に努めるとともに、アンケートや来館者カードの意見等を反映し、サービスの向上を図った。 入館者数は前年度比211人増であったが、開館当初と比較すると、依然として減少傾向にある。 牧水の知名度は全国の顕彰団体の活動、報道等により全国的な広がりはあるが、生誕地としての日向市、牧水記念文学館の知名度については、いまだ十分に周知されていない状況が伺えることから、今後より一層の魅力的な企画運営・積極的な情報提供を行う必要がある。
--------------------	---

評価項目		評価内容	評価		確認資料等
			指定管理者	市	
① 利用状況・サービス向上	施設（サービス）の利用状況	利用者が前年度実績や目標を上回っているか。施設の稼働率はどうか。	B	A	日報、月報、事業報告書
	施設の平等利用	利用者の平等な利用が確保されているか。	A	B	日報、月報、利用者アンケート
	苦情・要望等への対応	苦情、要望等を施設の管理運営に反映できているか。また、苦情数は減少しているか。	A	B	利用者アンケート
	利用者満足度	利用者アンケートは適切に実施されているか。その結果を施設の管理運営に反映できているか。	A	B	利用者アンケート
	サービス向上への取り組み	サービス向上に向けた具体的な取り組みがあるか。（自主事業の周知、接客態度、予約方法の工夫等）	B	B	日報、月報、事業報告書
	自主事業の実施状況	施設の設置目的に沿った自主事業を実施できたか。また、それによって施設利用者は増加したか。	B	B	日報、月報、事業報告書
	①の総括		B	B	
② 管理能力	人員配置の状況	事業計画書の通り人員が配置されているか。必要な資格や経験を有する人員が確保されているか。	B	B	人員配置計画、出勤簿、実地
	人材育成の状況	事業計画書の通り従業員の指導育成及び研修が行われているか。	B	B	研修マニュアル
	コンプライアンスについて	関係法令や市条例、市規則、その他市が定める規程及び仕様書に基づき適切に業務を遂行しているか。	B	B	業務ガイドライン等、実地
	従業員の労働環境	労働法令の遵守や労働条件への配慮がなされているか。	B	B	実地、出勤簿
	外部委託等の状況	業務の全部又は主たる業務を第三者に請け負わせていないか。	A	B	実地
	防犯、防災に対する態勢	避難経路の確保や事故防止策など、緊急事態への対策ができているか。	A	B	実地
	緊急事態に対する態勢	安全・衛生管理や危機管理に対するマニュアル等の整備や従業員を訓練する等、適切に行われているか。	B	B	危機管理マニュアル等、実地
	個人情報の保護	個人情報保護の規程を整備する等、研修や運用等の適切な対応がなされているか。	B	B	個人情報保護マニュアル等、実地

③維持管理・経理状況	情報公開の規程状況	情報公開の規程を整備する等、研修や運用等の適切な対応がなされているか。	B	B	情報公開マニュアル等、実地
	文書管理について	作成・受領した文書は適切に保管及び管理されているか。	B	B	実地、保存文書
	環境への配慮	環境に配慮した物品の購入、省エネの取組、リサイクルの推進等の対応を適切に行っているか。	A	B	日報、月報、実地
	②の総括		B	B	
	施設、設備等の管理状況	消防設備、機械設備の保守点検や施設の修繕等を適切に行っているか。	A	B	日報、月報、点検報告書、実地
	清掃、警備業務の実施状況	仕様書等に基づき、清掃業務、警備業務を適切に行っているか。	A	B	日報、月報、実地
	備品等の管理状況	備品台帳に基づき、備品等を適切に管理・保管しているか。	B	B	備品台帳、実地
	指定管理業務の収支状況	収支状況が当初の目標を達成しているか。（利用料金、委託料等の実績）	B	B	日報、月報、事業報告書
	自主事業の収支状況	自主事業の収支状況が当初の目標を達成しているか。	B	B	日報、月報、事業報告書
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行しているか。	B	B	日報、月報、事業報告書
	経費削減の取り組み	経費削減の取り組みが行われ、成果があらわれているか。	A	B	日報、月報、事業報告書
	指定管理料の精算（返還）	基本協定・年度協定に基づき、精算（返還）の要否を確認し、必要時は返還額算定・期限内返還・証憑整理まで適切に行われているか。	A	B	事業報告書、修繕実績書
	③の総括		B	B	
	総合評価	①、②、③の総括による総合評価	B	B	

※総合評価の理由	入館者数は有料の小中学生、有料の団体入館者が増加したこともあり、前年度を上回っており、当該項目については「A」評価としました。 令和7年度は牧水生誕140年記念事業、開館20周年記念事業も開催し、若山牧水が各種メディアで取り上げられる機会も多く、入館者増の要因の一つとなったと考えられます。 物価高騰のなか、厳しい運営が続いていますが、入館者がいない時には展示室の消灯を行うなど細かな経費節減の取組も行われています。 概ね協定書や仕様書に基づき適切な管理運営が行われていますが、施設の平等利用等の各項目について、協定の水準を上回る優れた管理が行われたと評価する十分な根拠が確認できなかったため「B」評価としています。
※特記事項 (成果・課題等)	コロナ禍の収束以降、入館者数は毎年増加傾向にありますが、入館者の半数を無料入館者が占める状況が続いており、入館者数の増加と併せて入館料収入の確保も課題となっています。 例年、1月及び2月の入館者数が年間を通して最も少ないことから、今後も展示内容の工夫や情報発信の強化を図りながら、顕彰活動の推進及び集客に努める必要があります。

※総合評価の理由及び特記事項（成果・課題等）は市所管課が記載します。

評価区分	評価基準	A（優良）＝協定書等を遵守し、その水準よりも優れた管理が行われた B（良好）＝協定書等を遵守し、その水準におおむね沿った管理が行われた C（課題含）＝協定等をおおむね遵守しているが、一部に課題が残る内容であった D（要改善）＝協定書等を遵守しておらず、改善が必要な内容であった
	総括	A（優良）＝評価基準が全てB以上であり、かつAが過半数以上である B（良好）＝評価基準が全てC以上であり、かつB以上が8割以上である C（課題含）＝評価基準が全てC以上である D（要改善）＝評価基準にDが含まれている
	総合評価	A（優良）＝総括が全てB以上であり、かつAが2つ以上ある B（良好）＝総括が全てB以上である C（課題含）＝総括が全てC以上である D（要改善）＝評価基準にDが含まれている